



認定NPO法人
インド福祉村協会

病との闘いは、心の触れ合いから

インド北部に位置するウッタール・プラデシュ州クシナガラは、ブッダ入滅の地として知られる。ここで今、貧しい人々のために医療活動に汗を流している日本人がいる。拠点は「インド福祉村病院」。認定NPO法人インド福祉村協会が現地NGOと共同で運営する病院だ。



認定NPO法人インド福祉村協会
〒441-8124 愛知県野依町字山中19-12
若菜荘内
TEL：0532-48-1138 / FAX：0532-48-2365
Email：iwws@post.sala.or.jp
URL：http://iwws.web.infoseek.co.jp/

治療以前の大きな問題

認定NPO法人インド福祉村協会は、1987年からウッタール・プラデシュ州の農村で医療活動を中心とした国際協力に取り組んできた。そして98年、活動の拠点として「インド福祉村病院」を建設。着工からわずか1年、病院は驚くべきスピードで完成した。

「インドでは何事もなかなか計画通りに進みません。病院建設も、着工当時は3年以上はかかるだろうと言われていました」そう語るのは、インド福祉村協会の常務理事、大竹紘一さんだ。大竹さん自身も現場監督として、現地の作業員たちとともにレンガを積み、セメントを塗った。

「とにかく皆真面目で懸命に働いていました。『この地域に病院をつくる』、その強い気持ちが生かされ、伝わってきたのを覚えています」

カースト制度の下で、貧しく身分の低いがあることを実感していく。それは、「患者の病のほとんどは、保健衛生に関する知識があれば予防できるものばかり」という事実だ。

2006年、大竹さんらインド福祉村協会はグプタ医師とともに、地域の女性や子どもたちを対象にした保健衛生教育を開始。JICAの草の根技術協力事業を活用したプロジェクトだ。妊産婦への母子健康手帳の配布や手洗いの励行、栄養に関するアドバイスなど教育内容は多岐にわたり、4年間で女性の教育講座は130回（参加者は2890人）、小中学校の巡回教育講座は85回（参加児童は8567人）にも及んだ。

しかし、地域内でのマラリアや結核の患者は相変わらず多く、これまでの支援だけでは、不十分な事態に直面した。

マラリアや結核に立ち向かうカ

「タケ・ババ！タケ・ババ！」大竹さんがインド福祉村病院近くの村々を訪れる時のいつもの光景だ。ババは現地の言葉で「おじさん」。多くの子どもたちが声を上げて駆け寄ってくるという。年2回ほど村を訪問する大竹さんは、子どもたちに大人気。村々には、病院建設で一緒に汗を流した仲間もいる。

大竹さんは今、マラリアと結核の撲滅を



小学校での保健衛生教育。医師の話に子どもたちは真剣に耳を傾ける

目的とした新たな事業の統括も務める。これまで進めてきた保健衛生教育に、マラリアや結核に関する教育・治療活動を加えることで人々の生活向上を図ろうというプロジェクトだ。

病院ではマラリアや結核の検査・診断を無料で行うほか、週に1回、婦人や妊婦、子どもを対象とした衛生教室を開く。講師は、地元の言葉を話す女性から選ぶ。同じ女性同士ならためらいなく質問できるため、理解も進むという。

また小中学校では、病気の予防や治療についての知識とともに、マラリアを媒介する蚊の恐ろしさについても講義。薬の服薬方法も指導する。JICA基金は、ここで使われる医薬品や検査薬品、教材などに充てられている。

大竹さんの役割は、村人とのより良い関係づくりだ。日本語、英語、ヒンディー語に身ぶり手ぶりを混じえて話し、健康状態を尋ねて歩き回る。

「誠心誠意接していれば、言葉の違いは大きな壁にはなりません」それが大竹さんの信念だ。病院建設のために現地の人々とともに働いた1年間で、その信念は揺るがないものになった。

農民たちが暮らすこの地域は、新生児の死亡率が高く、感染症にかかる人も多い。だからこそ、一日も早い病院の開設が待たれていた。

「この病院がなければ他の地域まで通わなければなりませんし、私たちには高い治療費が出るほど経済的なゆとりもありません」。患者さんたちの声を受け、診療費用を格安に設定した。

病院の開設から現在まで、人々の治療に当たってきたのがグプタ医師だ。グプタ医師は治療を重ねるにつれ、村には「治療以前の大きな問題」



今年1月、インド福祉村病院を視察した大竹さん。かやぶきの家は、この村の一般的な住居だ

「二番大切なのはHeart to Heart。心と心の触れ合いがあれば、病も貧困も必ず克服できると思うのです」

今年で開院13年目を迎えるインド福祉村病院は、これまでに25万人以上の患者を受け入れてきた。つまり、「25万以上の心の触れ合いがあった」と大竹さんは考える。その心は日本の「仲間」にも通じている。これまでに50人以上の医師や医療関係者が、ボランティアとして日本から駆け付けた。

インドは、人口11億人のうち約3割が貧困家庭であり、さらに世界の妊産婦死亡者の4人に1人がインドだといわれている。病に心で立ち向かうインド福祉村病院の取り組みは、インド全土から見れば小さな動きかもしれない。しかしいつか、悲しい数字を変え、大きな力の一つとなることだろう。



あなたの小さな一歩から始まる国際協力
世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。

JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>